

氏 名 (国 籍)	マニクガマゲ チャンダラ スワルナラタ ペレーラ (スリランカ)
学 位 の 種 類	博 士 (社 会 学)
学 位 記 番 号	博 乙 第 1810 号
学位授与年月日	平成14年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審 査 研 究 科	人文社会科学研究科
学 位 論 文 題 目	“THE SOCIO-PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVES OF INTERNATIONAL MIGRATION” (国際人口移動の社会心理学的分析)
主 査	筑波大学教授 博士 (社会学) 駒 井 洋
副 査	筑波大学教授 博士 (社会学) 菱 山 謙 二
副 査	筑波大学助教授 樽 川 典 子
副 査	筑波大学教授 博士 (文学) 小野澤 正 喜

論 文 の 内 容 の 要 旨

本論文は「序言」のほか8章から構成されている。

「研究の背景」と題される第1章は、国際移動研究の重要性を主張する第1節、国際移動研究の領域を確定する第2節、社会心理学的研究の意義を述べる第3節、研究の困難性を提示する第4節、研究の前提としての資本と労働の重要性を指摘する第5節、千葉県に在住する55サンプルに面接して質問票による調査をおこなったことを述べる第6節から構成されている。

「国際移動研究の理論的枠組み」と題される第2章は、国際移動を時間的空間的移動現象として位置づける第1節、研究に確定された視角がないことを主張する第2節、国際移動を意志決定をとまなう境界を越える行動と定義する第3節、時間的空間的移動類型を提示する第4節、非移動者と対照しながら移動者の属性の究明をおこなう第5節、均衡論、世界システム論、新古典主義的アプローチなど代表的学説を整理する第6節から構成されている。

「グローバル化下での国際移動」と題される第3章では、第1節で移動の歴史が概観されたのち、第2節から第7節まで国際移動が生起する原因別の類型が提示される。それらは、自由意志による移動、強制移動、第二次大戦前の自由労働移動、第二次大戦後の自由労働移動、契約労働による移動、非正規な労働移動である。

「アジアにおける国際移動の新潮流」と題される第4章は、アジアの国際人口移動を概観する第1節、とりわけ送出国と受け入れ国に注目する第2節、スリランカの移動のパターンとその変化を分析する第3節、日本の外国人労働者を概観する第4節、日本の超過滞在者に着目する第5節、日本の研修生をとりあげる第6節、日本におけるスリランカ移民を概観する第7節、日本でのスリランカ移民の人口分布に関する第8節、日本の移民政策を検討する第9節から構成されている。

「移民の諸行動の社会心理学的分析」と題される第5章は、行動が環境と動機付けとから分析できるとする第1節、年齢・性別・婚姻・教育・職業など属性との関係を検討する第2節、移動の主観的要因を整理する第3節、移動の客観的要因をプッシュ・プルに分けて示す第4節、移動という意志決定についての総合的論理図式を提示する第5節から構成されている。

「新たな環境への適応」と題される第6章は、同化のプロセスを分析する第1節、文化変容の過程を検討する第2節、適応の諸条件を概観する第3節、出身国や流入先の人びととの接触を理論化する第4節、多文化主義を促

進ないし阻止する条件を整理する第5節につづいて、第6節以下では、適応上の具体例として、文化ショック、住宅、医療の諸問題が提示される。

「国際移動の帰結」と題される第7章は、出身国の経済発展との関係を検討する第1節、労働市場との関連を分析する第2節、移動の前後の個人的変化を整理する第3節、帰国者が出身国に与える影響を考慮する第4節から構成されている。

「結論と政策提言」と題される第8章は、国際人口移動のプラスの効果を検討する第1節、同じくマイナスの効果を検討する第2節、国際化の進展が国際人口移動に及ぼす影響を予測する第3節、送出国および受け入れ国の双方にたいする政策提言をおこなう第4節から構成されている。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文が国際人口移動の理論的一般化をおこなうなかで、とりわけ社会心理学的側面性に着目しその体系的な整理に成功していることは高く評価される。また実証においては、日本に滞留するスリランカ人にたいする質問紙を用いる面接調査の結果が活用されており、この点も評価に値する。ただし、社会心理学的なモデルの形成に若干弱いところがあり、また概念構成にもやや粗雑なところがあるが、本論文の価値を損なうほどのものではない。

よって、著者は博士（社会学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。